

## 令和8年第2回函館市教育委員会定例会 会議録

- |        |  |
|--------|--|
| 1 日 時  | 令和8年（2026年）2月2日（月） 午後1時00分                                       |
| 2 場 所  | 市役所本庁舎5階教育委員室  |
| 3 出席者  | 藤井教育長，木村委員，小葉松委員，國谷委員，井口委員                                       |
| 4 欠席者  |  |
| 5 事務局  | 堤学校教育部長，宮田生涯学習部次長，上野学校教育部次長，<br>鈴木管理課長，木村文化財課長，中山教育指導課長，中田教育政策課長 |
| 6 傍聴者  | 0人   |
| 7 付議事項 | 別紙議事日程のとおり   |

### ■教育長

- 開会宣言 午後1時00分
- まず，日程第1，議事録署名人の指名について，木村委員，小葉松委員を指名する。
- 本日の日程のうち，日程第7 議案第5号「令和8年度教育行政執行方針の決定に関し，議決を求めることについて」から，日程第13 報告第3号「令和8（2026）年度教育委員会関係予算要求の内示結果について」までを「非公開」としたいが，いかがか。

（異議なし）

### ■教育長

- 異議がないので，「非公開」とする。
- 次に日程第2，月間事業報告について，事務局の動きについて報告を求める。

### ■学校教育部長

- 1月15日だが，市立小・中・義務教育学校の第3学期始業式が行われ，23日には教育委員会臨時会を持ち回りで開催した。
- また，この期間において，資料に記載のとおり，参考資料を配付している。

### ■教育長

- 事務局の動きについて何かあるか。

（意見なし）

### ■教育長

- 次に，日程第3 議案第1号「函館市社会教育委員の委嘱に関し，議決を求めることについて」生涯学習部次長から説明を求める。

### ■生涯学習部次長

- 委員の任期満了に伴い、田上 悟 氏ほか14名を、令和8年3月11日から令和10年3月10日まで委嘱しようとするものである。

■教育長

- 議案第1号について何かあるか。

(意見なし)

■教育長

- 議案第1号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第4 議案第2号「函館市文化財保護審議会委員の委嘱に関し、議決を求めることについて」生涯学習部次長から説明を求める。

■生涯学習部次長

- 委員の任期満了に伴い、川嶋 稔夫 氏ほか9名を、令和8年2月2日から令和10年2月1日まで委嘱しようとするものである。

■教育長

- 議案第2号について何かあるか。

(意見なし)

■教育長

- 議案第2号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第5 議案第3号「博物館協議会委員の任命に関し、議決を求めることについて」生涯学習部次長から説明を求める。

■生涯学習部次長

- 委員の任期満了に伴い、川嶋 稔夫 氏ほか10名を、令和8年2月22日から令和10年2月21日まで任命しようとするものである。

■教育長

- 議案第3号について何かあるか。

(意見なし)

■教育長

- 議案第3号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第6 議案第4号「函館市立港中学校の敷地の変更に関し、議決を求めることについて」生涯学習部次長から説明を求める。

■生涯学習部次長

- 現在の港中学校の敷地につきましては、所在地が「港町2丁目264番5」など7筆で、地積は、合計20,609.00㎡となっているが、函館地方法務局による地図作成のための測量が行われ、測量による誤差分として118㎡増加したことに伴い、20,727.00㎡に変更するものである。

■教育長

- 議案第4号について何かあるか。

(意見なし)

■教育長

- 議案第4号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第7 議案第5号「令和8年度教育行政執行方針の決定に関し、議決を求めることについて」学校教育部長から説明を求める。

(非公開につき、議事録省略)

■教育長

- 議案第5号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第8 議案第6号「教職員の懲戒処分の内申に関し、議決を求めることについて」学校教育部長から説明を求める。

(非公開につき、議事録省略)

■教育長

- 議案第6号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第9 議案第7号「函館市青年センター条例の一部を改正する条例の制定依頼に関し、議決を求めることについて」生涯学習部次長から説明を求める。

(非公開につき、議事録省略)

■教育長

- 議案第7号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第10 議案第8号「函館市芸術ホール条例の一部を改正する条例の制定依頼に関し、議決を求めることについて」生涯学習部次長から説明を求める。

(非公開につき、議事録省略)

■教育長

- 議案第8号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第12 議案第9号「物品の購入契約の依頼に関し、議決を求めることについて」学校教育部長から説明を求める。

(非公開につき、議事録省略)

■教育長

- 議案第9号は原案のとおり決定する。

■教育長

- 次に、日程第13 報告第1号「教職員の懲戒処分内申の結果について」学校教育部長から説明を求める。

(非公開につき、議事録省略)

■教育長

- 次に、日程第13 報告第2号「令和7(2025)年度補正予算要求の内示結果について」および、報告第3号「令和8(2026)年度教育委員会関係予算要求の内示結果について」一括、生涯学習部次長から説明を求める。

(非公開につき、議事録省略)

■教育長

- 次に、日程第14 報告第4号「「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方」の評価について」生涯学習部次長から説明を求める。

■生涯学習部次長

- 資料1をご覧ください。「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方」については、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である史跡垣ノ島遺跡および史跡大船遺跡と、本市の縄文文化の発信拠点である縄文文化交流センターがあることから、これらを活用して、市民や企業・民間団体、行政機関が相互に連携・協働しながら各種の取り組みを進め、世界文化遺産登録による効果を最大化することを目的に世界遺産登録の前年となる令和2年10月に策定したものである。

- 2ページをご覧ください。4の施策の基本的な方向性において、「これらの取り組みは、令和6年度(2024年度)までの5年間において、評価・検証を行い、適宜改善に努めながら進めることとする」としている。

- 3ページの次に添付しております「参考1」をご覧ください。こちらでは「あり方」を策

定した時点での、縄文関連施設への来訪者数について、それまでの来訪者推移や他の世界遺産への来訪者動向を勘案して、登録前年度から登録4年目までの推計となっている。

- 資料2をご覧願う。縄文関係施設の来訪者数について、あり方で算出した推計と実際の来訪者数を比較したものである。縄文文化交流センターでは、新型コロナウイルスの影響により登録初年度となる令和3年度が推計の半分となる約3万人であったが、それ以降の年度は推計の9割以上と、ほぼ推計に近い来訪者数となっている。道の駅「縄文ロマン南かやべ」と史跡垣ノ島遺跡については、令和3年度で推計の15%程度、それ以降の年度は30%から50%と、推計よりもだいぶ少なくなっているが、過大に推計したことに起因するものと思われる。
- 史跡大船遺跡では、令和3年度は、やはり新型コロナウイルスの影響があったものの、令和4年度以降は推計よりも3割から5割増しの来訪者数となっている。
- 総じて見ると、登録初年度の令和3年度は新型コロナウイルスの影響が如実に現れたものの、それ以降の年度は、ほぼ一定の水準で、少しずつ減少しながら推移している状況にある。なお、来年度は世界遺産登録5周年であるため、来訪者の増につながる周年事業を展開していきたいと考えている。
- 続いて資料3をご覧願う。あり方で設定した評価・検証を項目ごとに記載したもので、昨年9月に開催した函館市縄文遺跡群保存活用協議会でご議論いただき、いただいた意見をもとにまとめたものとなっている。表の構成だが、4つの大項目の下にいくつかの細目を立て、さらに具体的な内容を設定して、それぞれに対しA・B・Cの3つの評価をしている。なお、表の中ほどには、各項目に該当する実際に行った内容について、実施年月と実施内容、場所などを列記している。
- 評価としては、表1ページ目の上から4番目「発掘調査現場の公開」が評価Cとなっている以外はAもしくはBとなっていることから、世界遺産登録による効果促進に係る各施策については、ほぼ達成できたものと考えている。
- また、本あり方については、令和6年度までの評価ということで、今回で一区切りとなるが、このあり方に記載されている施策については、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

#### ■教育長

- ただいまの件について、何かあるか。

#### ■小葉松委員

- 縄文文化交流センターの学術的な展示の展示替えについて、季節ごとや、1年に1回等決まったものはあるか。

#### ■文化財課長

- 縄文文化交流センターの展示については、一部展示品の貸出等で常設展示の若干の展示替えはあるが、大幅な展示替えをすることはない。その部分は特別展として、例えばカクウの発見50年に合わせた特別展示を別室で行う等している。

#### ■小葉松委員

○ 稼働日数の中で特別展示を行っている割合はどのくらいか。

■文化財課長

○ 1か月程度となっている。

■小葉松委員

○ 1年のうちの1か月では少し寂しいように思う。

■文化財課長

○ 今後も取り組みについて検討していく。

■教育長

○ ほかに何かあるか。

(意見なし)

■教育長

○ 次に、日程第15 報告第5号「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について」学校教育部長から説明を求める。

■学校教育部長

○ 令和8年第1回教育委員会定例会において、函館市における、令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関して議決いただいたが、今回は、本市の調査結果の概要を説明する。

○ 資料1ページをご覧ください。本調査は、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、改善を図るとともに、継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における指導等の改善に役立てることを目的とし、国・公・私立学校の小学校第5学年および中学校第2学年の全児童生徒を対象に、悉皆調査を行っているものである。

○ 調査内容については、(3)をご覧ください。小中学校とも、8種目の実技に関する調査と、質問紙調査の2つで構成されている。

○ 2ページをご覧ください。結果の概要について説明する。本市の小学校の体格の状況について、表の赤色の線が全国平均で、青いグラフが男子、オレンジのグラフが女子を表しており、身長、体重ともに全国平均を上回っている。また、小学校男女ともに、肥満の割合が全国の割合を上回っており、特に、男子の高度肥満の割合は、全国の割合を大きく上回っている。

○ 3ページをご覧ください。中学校の体格の状況だが、小学校同様、男女とも、身長・体重ともに、全国平均を上回っている。また、肥満の割合についても、小学校同様、全国の割合を上回っており、特に、男子の肥満の割合が、全国の割合をやや上回っている。

○ 4ページをご覧ください。実技に関する調査結果だが、調査項目である小中学校各8種目の記録に関し、全国平均を50としたT得点の体力合計点については、小学校男女、中学校男女ともに、全国平均を下回っている。

○ その下は、種目別の状況について、T得点の全国平均を50として、赤い線で示して

おり、上段の青いグラフが男子、下段のオレンジのグラフが女子の結果を表している。

- 種目別で見ても、小学校では、男子は「握力」「ソフトボール投げ」の2種目で、女子はそれに加え「長座体前屈」の3種目で全国平均を上回る結果となっている。
- 5ページをご覧ください。中学校における実技の調査結果であるが、種目別で見ると、中学校においては、全ての種目で、全国平均を下回る結果となっているが、昨年度に比べ、男女ともに「50m走」「ハンドボール投げ」等、4種目において改善が見られる。
- 6ページをご覧ください。児童生徒の質問紙調査の結果である。「運動が好き」と回答した割合は、小中学校男女とも全国平均を上回る結果となっている。一方、小中学校の男女とも「朝食を毎日食べる」と回答した割合は、全国平均を下回っている。また「TV、ゲーム、スマホ等の視聴時間が3時間以上」と回答した割合は、全国平均を大きく上回る結果となり、生活習慣の改善が課題となっている。
- 7ページから10ページの資料については、過去5年間の経年変化となっている。この後、さらに詳細な分析を行い、市教委としての取組に生かしていきたいと考えている。

■教育長

- ただいまの件について、何かあるか。

■小葉松委員

- 朝食を食べる割合の低さと睡眠時間の短さは、とても深刻なので何とかならないかと思う。

■教育長

- 小葉松先生はご専門だと思うが、こういった生活の不規則性と肥満というのは、関係するものなのか。

■小葉松委員

- 朝食を食べない場合、基本的には2食になる。同じ量を食べるのなら、食べる回数が少ない方が蓄積率が高くなるというか、体は飢餓状態が長く続くと、入ってきたものを蓄えておかなくては行けないと、そういう働きがあるので、同じ量を3度に分けた方が太りにくくなる。例えば、お相撲さんは朝食を食べず、わざと2食にして体重増やすというような話があるように、そういった関係はあるのではないかと。

■木村委員

- 函館は全国と比べ、朝食の摂取率が低い割合で推移しているが、改めてこんなに差があったのかと感じた。以前から摂取率の低さについて、PTAと連携しながら、様々な取り組みをしてきた記憶があるが、最近はどうなのか。

■学校教育部長

- 最近もPTAと連携して、PTA会長名で生活習慣の改善に向け、それぞれのご家庭にご協力を求めるような文書を出していたり、PTAの研修会の中で子ども達の生活習慣をテーマに取り上げたりしている学校もある。また、函館の子ども達は、スマホやゲ

ーム、テレビの視聴時間が全国平均に比べて長いことから、夜型の生活になってきているのではないかとも思う。そういったことも朝起きれない、朝食を食べれないという点に結びついているのではないかということで、それぞれの学校でも取り組みはしているが、まだ結果の改善には至っていないところである。

■木村委員

- 6 ページ目の運動習慣調査については、1 週間の総運動時間記載されているが、小学校男子がプラス60分、中学校女子がマイナス76分というのは、全国に比べて随分差があるがこれはそのとおりののか。

■教育指導課長

- 1 週間の総時間を合わせると結果はこのようになる。小学校男子、女子の全国平均と函館の子どもを比べると、平日の運動時間は全国を上回っているが、土日の運動時間が極端に少なくなっている。これは、習い事やクラブチームへの加入率が、全国と比べて低いことが理由として考えられる。平日については、学校での運動や休み時間の活動の多さが功を奏しているのかと思われる。中学校では、全国と比べ、水曜日と土日の運動時間が少なく、これは北海道全体で言えることであるが、水曜日に教職員会議が行われる学校が多いという理由が考えられる。

■教育長

- ほかに何かあるか。

(意見なし)

■教育長

- 次に、日程第16「今後の主な日程について」管理課長から報告を求める。

■管理課長

- 令和8年第3回教育員会定例会を3月23日(月)に行うので出席方お願いする。また、2月10日(火)に函館国際ホテルで令和7年度函館市スポーツ賞贈呈式が開催される予定である。

■教育長

- これで、定例会を終了する。

■終了宣言

- 午後1時58分

議事録署名人 木村雅彦

〃 小葉松洋子

調製者庶務係 庭田真由